草平武志教授への送別の辞

長谷川真司
HASEGAWA Masashi

草平武志先生は山口県出身で、山口県の福祉職として現場経験を経て1994年に山口女子大学社会福祉学部助手として赴任されてから現在に至るまで28年の間大学教員として勤務されました。草平先生とは同じ大学院の恩師のもとで学んだ縁もあり、個人的には私が大学院修士課程に入学した2002年の岩手県遠野市における日本地域福祉研究所主催の地域福祉実践研究セミナーから面識がありましたが、深く関わるようになったのは山口県立大学に赴任してからになります。草平先生の大学教員人生を助手時代から現在まで通して語ることができる先生は他にもいますが、今回私が山口県立大学の赴任してからの９年間地域福祉に係る教育や実践の支援を大学で学生に対してまた地域で専門職に対して一緒に行ってきた同僚としてまた後輩として僭越ながら送別の辞を贈らせていただきます。

草平先生は、大学教員として教育と実践を結びつけることを意識して山口県内の多様な地域福祉実践の現場に関わってきました。これは、草平先生の大学院時代の恩師である大橋謙策先生からの教えを大事にしてきたからだと思います。草平先生は行政の福祉職時代に専門職として現場経験は十分ありましたが、それまでの経験だけにとらわれることなく、大学教員になってからは全国の地域福祉の動向にも常に注視し、また全国各地の先駆的な実践から学びを深めるようにしていました。そして、山口県内の市町村の地域福祉実践を推進するために学んだ知識を活用する一方で、大学の教育内容にも先駆的な実践事例を反映させて学生に伝えることを意識して講義を行っていました。大学教員として関わった主な地域福祉実践としては、まず行政の地域福祉計画や社会福祉協議会の地域福祉活動計画の策定及び評価に学識経験者として関わり、地域福祉を推進するための仕組みや体制を構築するための役割を果たしてきたことがあります。山口市と防府市では地域福祉計画策定委員会の会長としてそれぞれの市の状況を踏まえつつ全国の他の先進的な自治体の取り組みも考慮して計画をとりまとめています。

また、大学教育のなかでも特に実習・演習教育を通して教育と実践を結びつけることに取り組んできました。県内の自治体や社会福祉法人の関係者と実習を通しての関係構築のみだけではなく、多様な実践現場、委員会や研修会などのなかで個別に関係を丁寧に築き、大学の実習教育に反映させてきました。関係者との良好な関係から実習施設や機関の確保につなげるだけでなく、実習指導者とはより充実した実習内容を協働で作り上げることも行ってきました。また、現任者教育を活かして実習内容を充実させる取り組みを行ってきました。例えば、近年ではコミュニティソーシャルワークの研修会を山口県社会福祉協議会と協働で企画・実施し現任の地域福祉専門職の教育を行っていますが、この研修会を社会福祉協議会の実習指導者には全員受講してもらい、研修内容を実習プログラムにも反映してもらうことで全ての実習機関の指導者が共通の知識や技法を理解したうえで実習指導を行ってもらうように取り組んできました。さらに、28年間の実習教育を通して数多くの卒業生を輩出し、実習指導者に本学の卒業生の占める割合が高い現状にも貢献してきました。そして、学内学会等を通して卒業生とのネットワークづくりにも尽力し、卒業生と現役生との交流を通して教育と実践の融合を図ることにも貢献してきました。

また、本学の演習教育の特徴にあげられるプログラム企画演習では、大学の地元の地域で学生が地域

の団体や地域住民ともに地域の課題解決に取り組むことができる環境を整えるため、民生委員や福祉委員への研修会における講演はもちろん、地域住民に対する福祉教育にも積極的に関与し、地域の団体や地域住民と丁寧に関係を築いてきました。

我々は草平先生の教育と実践をむすびつける姿に学びながら、学部の財産でもある実習機関・施設の関係者や実習指導者との関係また地域の住民組織や住民との関係を、それぞれの教員が自治体や職能団体などの委員会の委員や研修の講師を引き受けることなどを通して丁寧に築きながら今後も良好な関係が継続できるようにしなければならないと思っています。

草平先生は、社会福祉学部創設当初から助手として学部運営に深く関わり、その後学部長も勤められ、学部の変遷についての知識や学部運営の見識が高いなか我々も困った時にはいつも相談しに行く駆け込み寺的また生き字引的存在でした。大学の地域貢献が今まで以上に求められる時代において、改めて地方公立大学の強みを活かし教育と実践の融合を地域で行ってきた草平先生から学ぶことは多く、今後草平先生が身近な相談相手として大学にいないことは残念です。退職されてもまた相談にのっていただけば幸いです。